

## 長野県の神城断層にて古地震調査を実施しました (2015/11/23)

テーマ：活断層，地震，地震ハザード・リスク評価，2014年長野県北部の地震  
場所：長野県北安曇郡白馬村

2015年11月3日(火)～23日(月)長野県北安曇郡白馬村において，古地震履歴調査のためのトレンチ掘削を実施しました。トレンチは，2014年長野県北部の地震によって出現した神城断層に沿った地表地震断層上で掘削しました。上記の期間，トレンチを公開し，研究者・行政関係者・一般の方々に説明を実施しました(写真)。またメディアへの取材にも対応し，昨年の地震から一周年にあたる11月22日の午後7時からのNHKニュースにて報道されました。今回のトレンチ調査では，2014年の地震の前にも複数回の断層活動があったことがわかりました。今後，年代測定や遺物鑑定などの調査を追加し，より詳細な断層活動時期の推定を行います。その結果を用いて，これまで公表されていた活断層評価を検証し，内陸活断層による地震リスク評価に資する情報を提供したいと考えています。

災害科学国際研究所からは災害理学研究部門の遠田晋次教授・岡田真介助教・丹羽雄一助教・石村大輔助教が調査に参加しました。また，本調査は文部科学省委託業務「糸魚川―静岡構造線断層帯における重点的な調査観測(追加調査)」の一環として実施されています。



研究者に説明する遠田教授



白馬村役場職員に説明する遠田教授

文責：石村大輔(災害理学研究部門)